

第 1 9 3 回

地震予知連絡会資料

2 0 1 1 年 1 1 月 1 8 日



京都大学防災研究所

第193回地震予知連絡会提出資料

目 次

I. 近畿地方北部の地殻活動 (3)

- 1. 丹波山地における微小地震活動の静穏化 1
- 2. 地殻変動連続観測のトレンド変化 2

II. 地殻活動総合観測線の観測結果 (3) 4

近畿北部の地殻活動～丹波山地における微小地震活動静穏化～

京都大学防災研究所地震予知研究センター

大阪府北部から京都府中部、琵琶湖西岸にかけての「丹波山地」は微小地震活動が定期的に活発な地域である。微小地震発生数は2003年1月末ごろ突然それ以前の約7割に低下し、その静穏状態は長期にわたり継続していた。1946年南海地震や1995年兵庫県南部地震前にこの地域の地震活動が低下したことが知られており、近年の静穏化の推移が注目されていたが、2009年以降活動はやや活発化を示し、静穏化以前とほぼ同等のレートに回復していた。

ところが、本年1月末ごろから発生数が減少し、2003年以来最低のレートを記録した。3月11日の東北地方太平洋沖地震(M9.0)の前後ではとくに活動に変化は見られなかったが、2月以降の低いレートを現在も維持している。

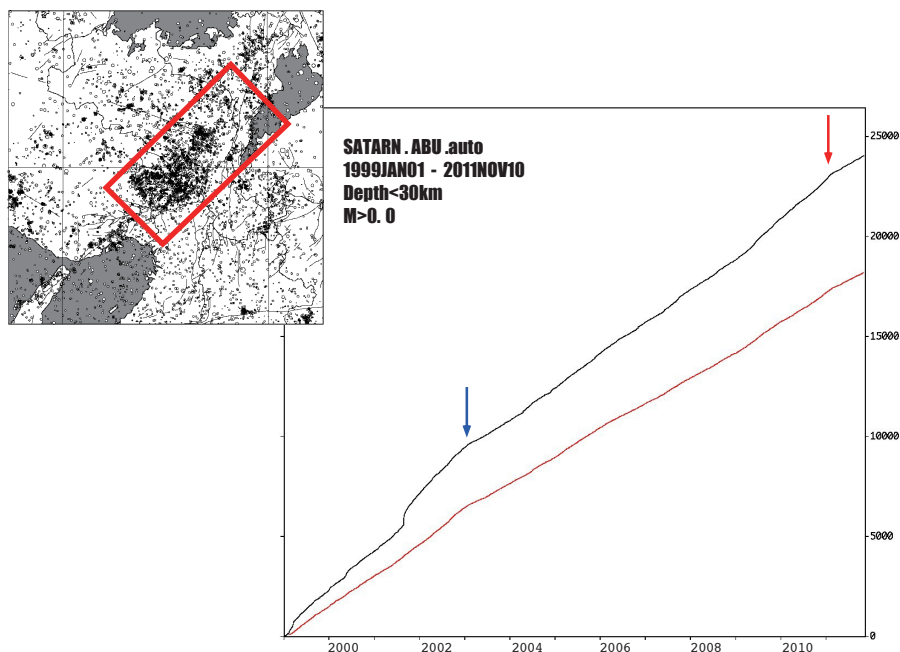


図1：左上に示す近畿地方北部の矩形範囲内における積算地震発生数。京都大学防災研究所地震予知研究センターによる。1999年1月1日～2011年11月10日、30km以浅。赤矢印は3月11日の東北地方太平洋沖地震発生時点を示す。青矢印は丹波山地の静穏化が始まった2003年初頭の時期を示す。赤線は decluster したカタログによるもの。

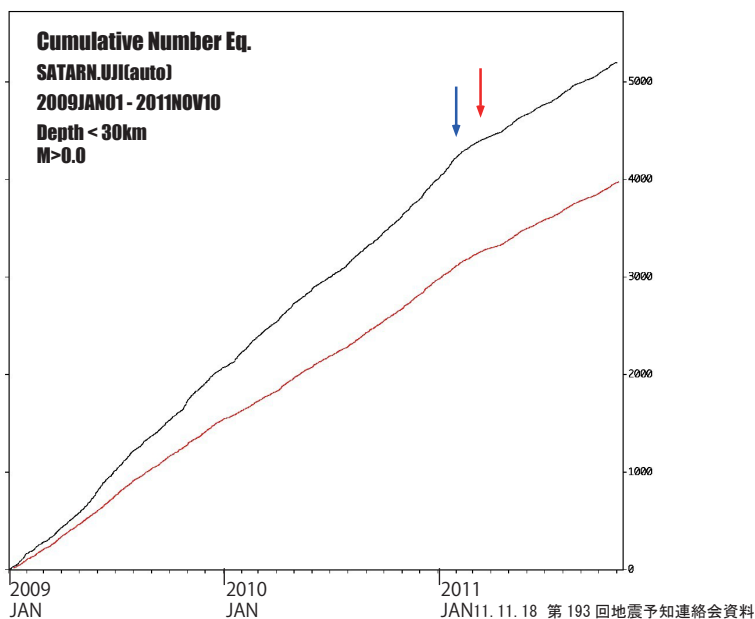
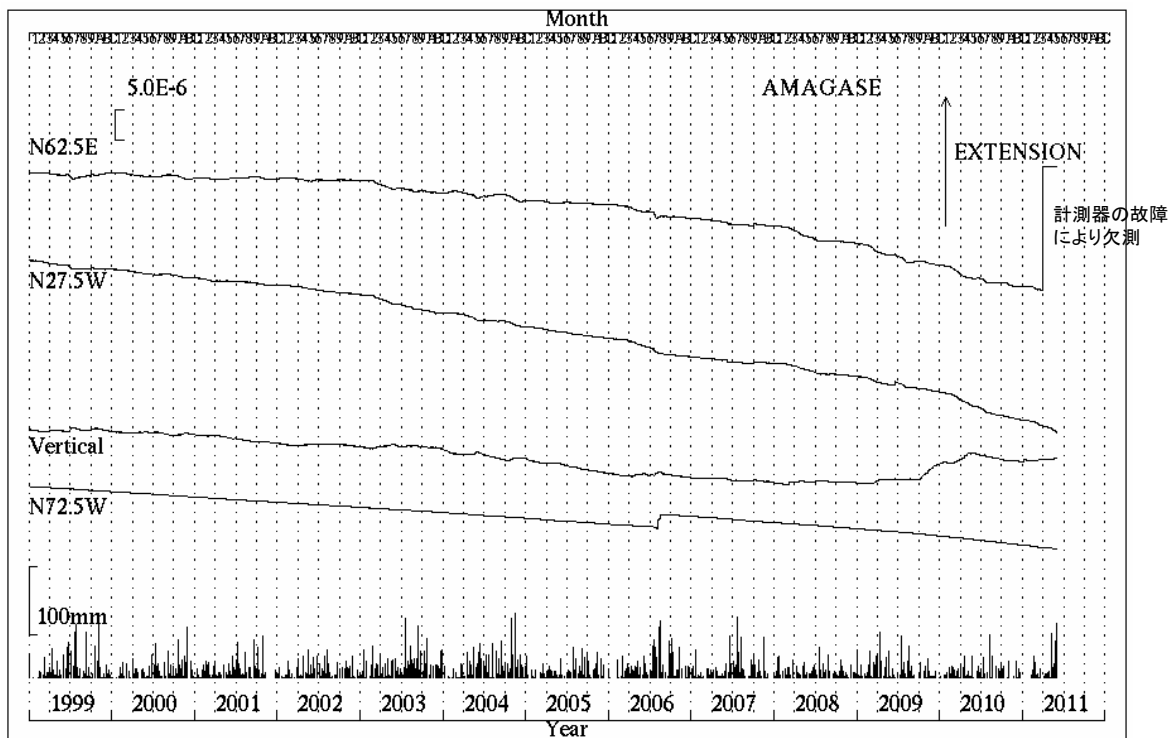
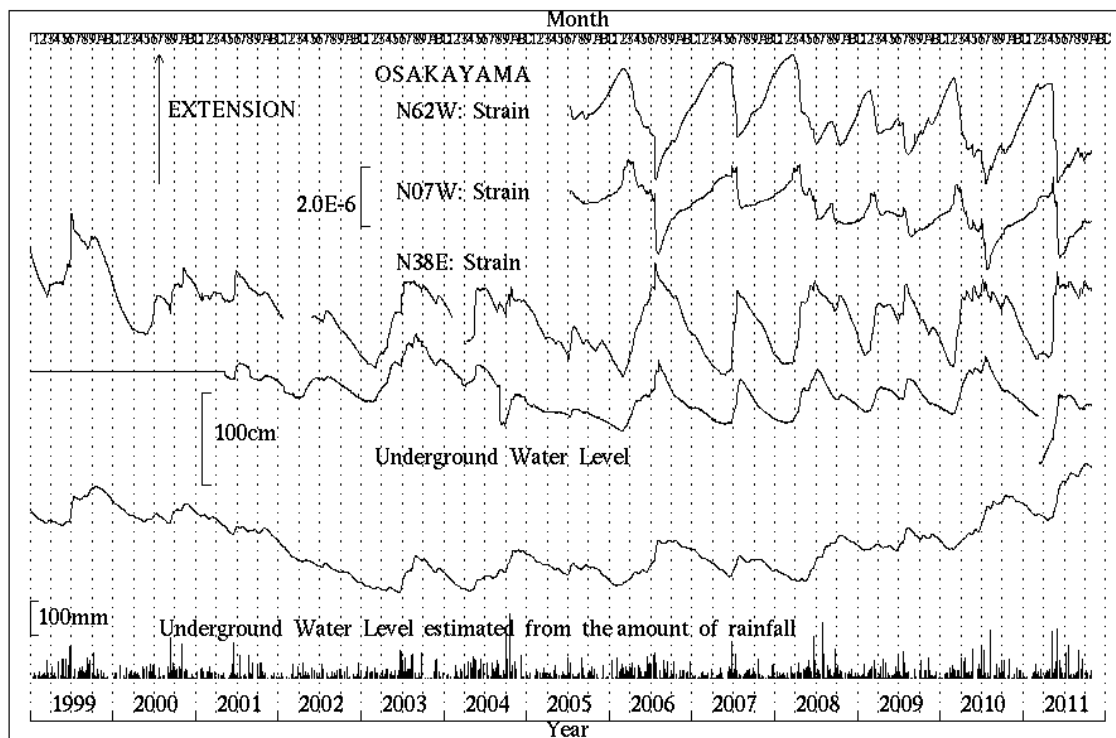


図2：図1左上に示す近畿地方北部の矩形範囲内における積算地震発生数。京都大学防災研究所地震予知研究センターによる。赤線は decluster したカタログによるもの。2009年1月1日～2011年11月10日、30km以浅。赤矢印は3月11日の東北地方太平洋沖地震発生時点を示す。青矢印は活動の変化した1月末～2月初の時期を示す。

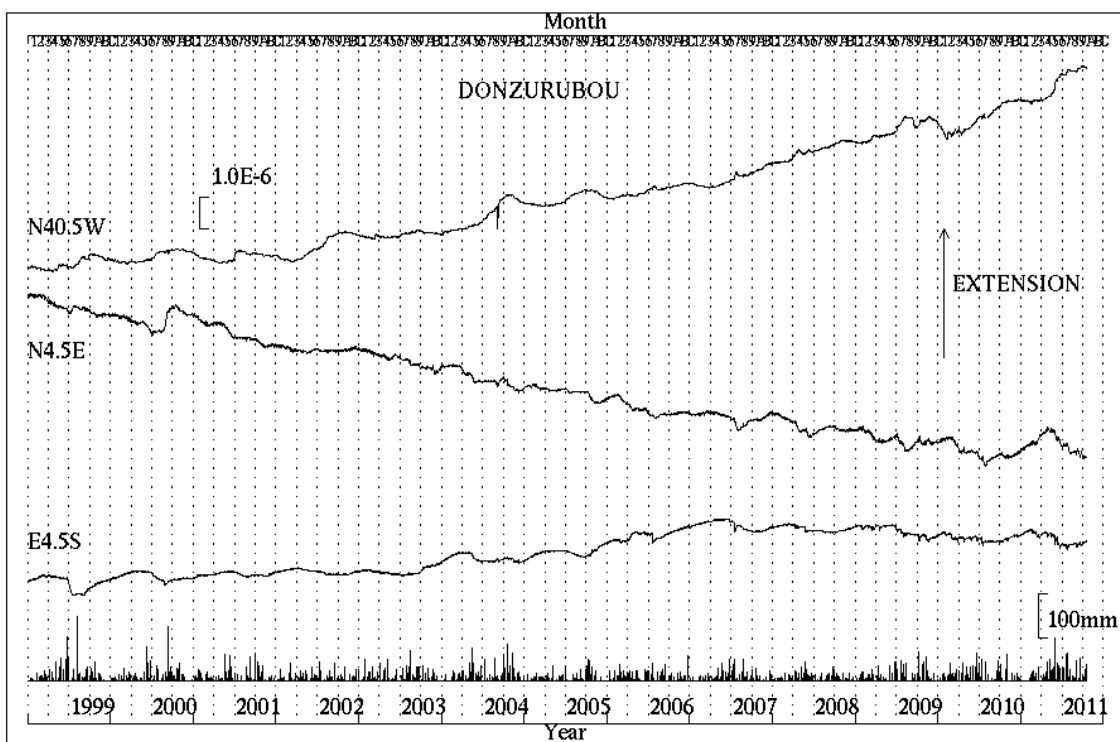
京都大学防災研究所地震予知研究センター



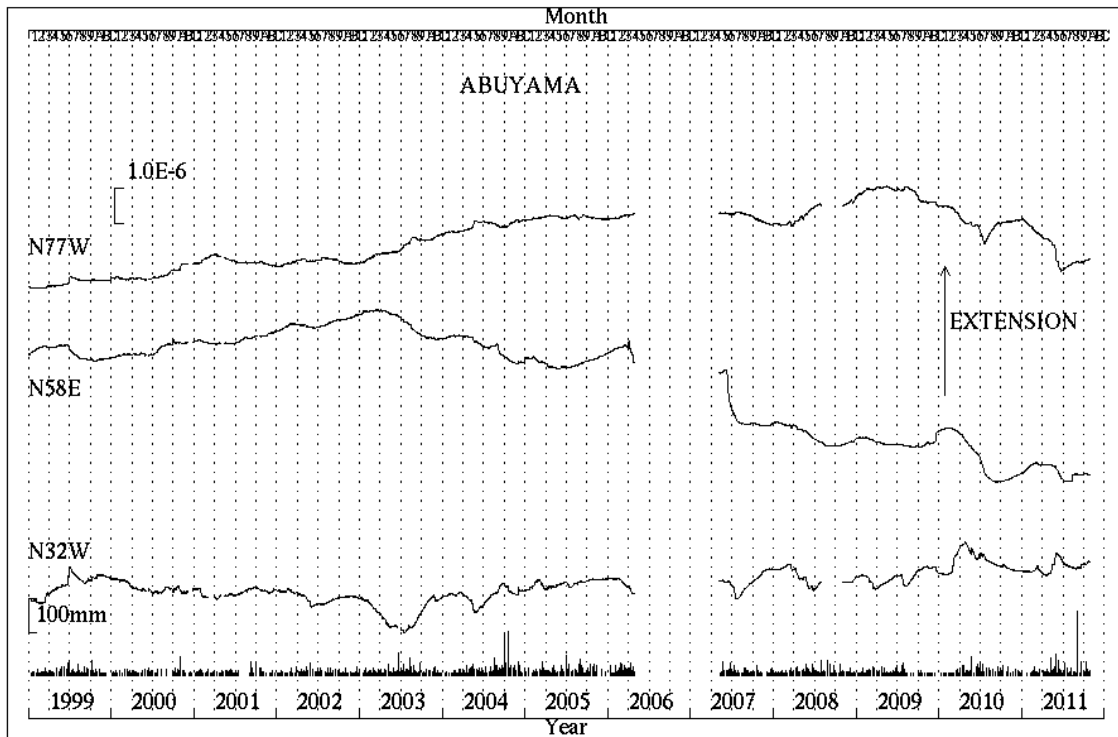
第1図 天ヶ瀬観測室における歪変化と日雨量（1999年1月～2011年6月）



第2図 逢坂山観測所における歪変化、地下水位と日雨量（1999年1月～2011年10月）



第3図 屯鶴峯観測所における歪変化と日雨量（1999年1月～2011年10月）

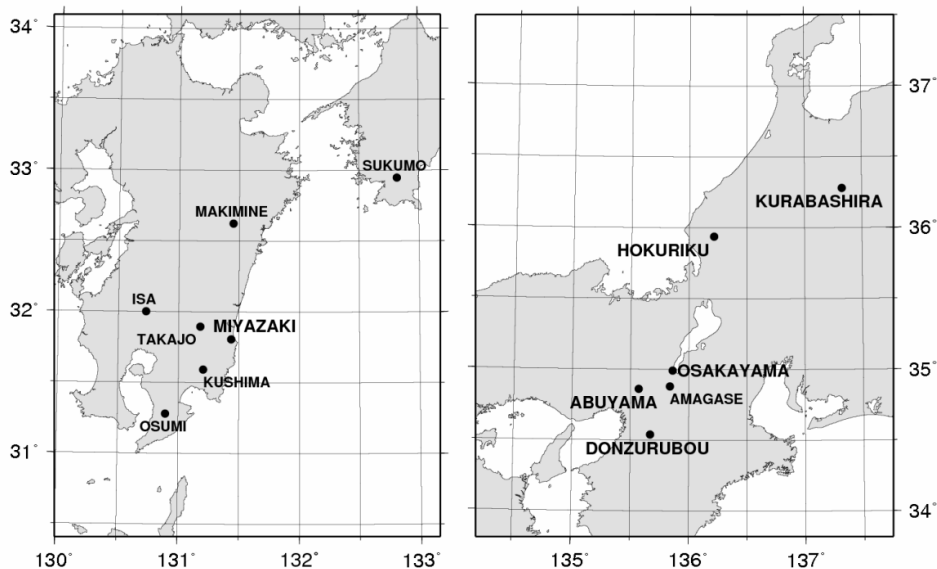


第4図 阿武山観測所における歪変化と日雨量（1999年1月～2011年10月）

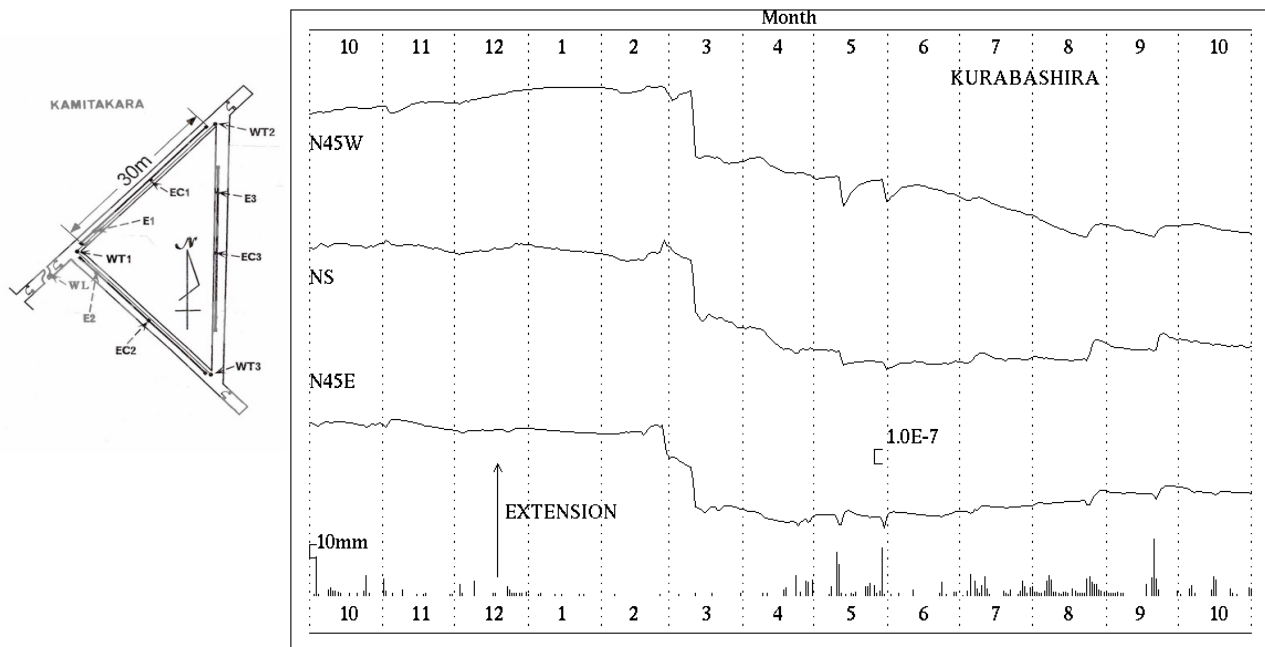
近畿地方横坑連続観測点4点の1999年1月～2011年10月の伸縮計記録を示す。
微小地震活動の静穏化と同時に歪速度が変化したため、その推移に注意している。

地殻活動総合観測線最近1年の観測結果

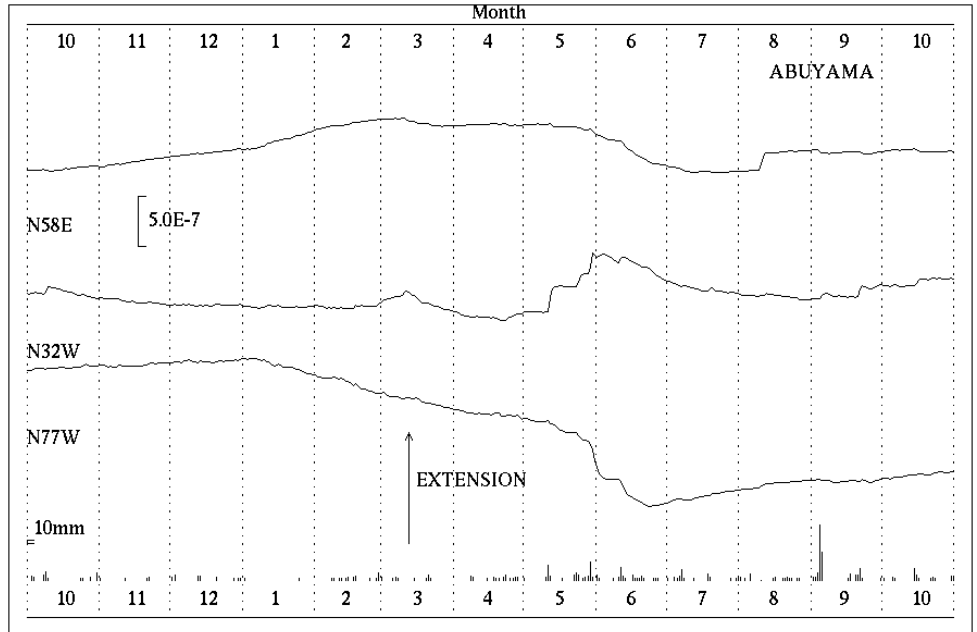
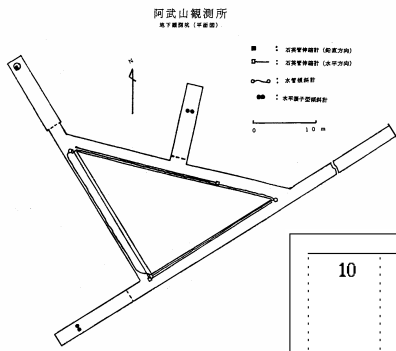
京都大学防災研究所地震予知研究センター



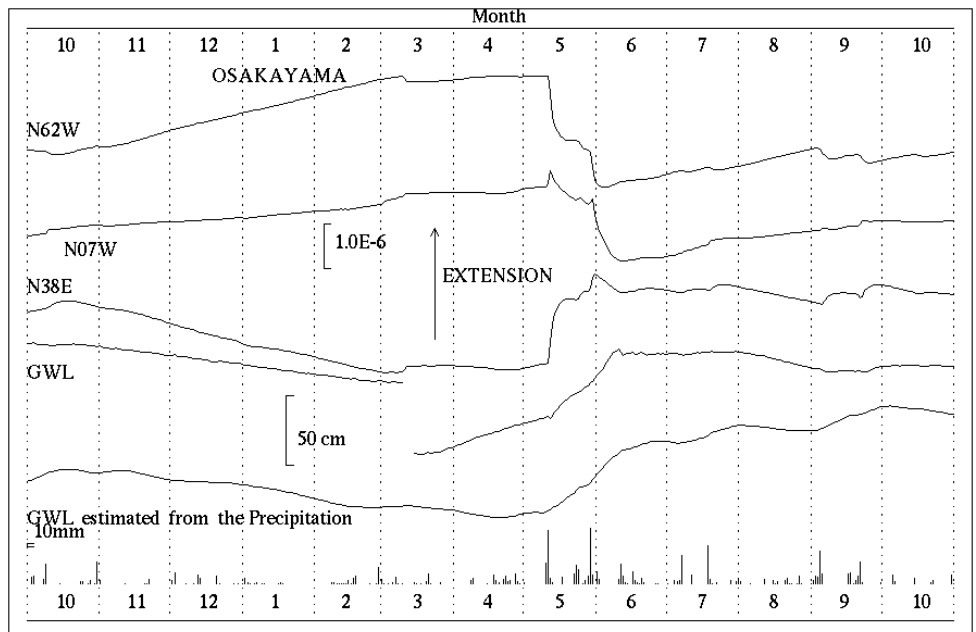
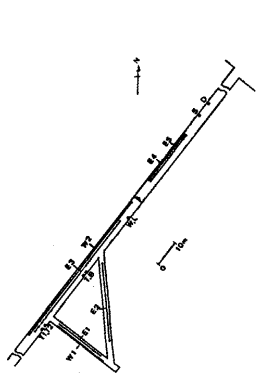
第1図 観測点位置図



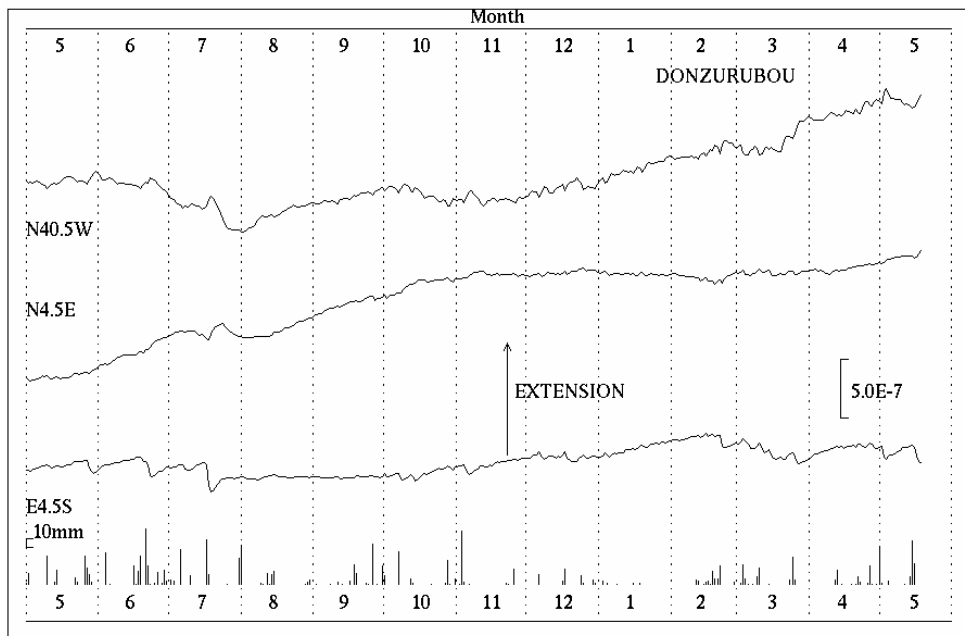
第2図 上宝観測所蔵柱観測室における歪変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



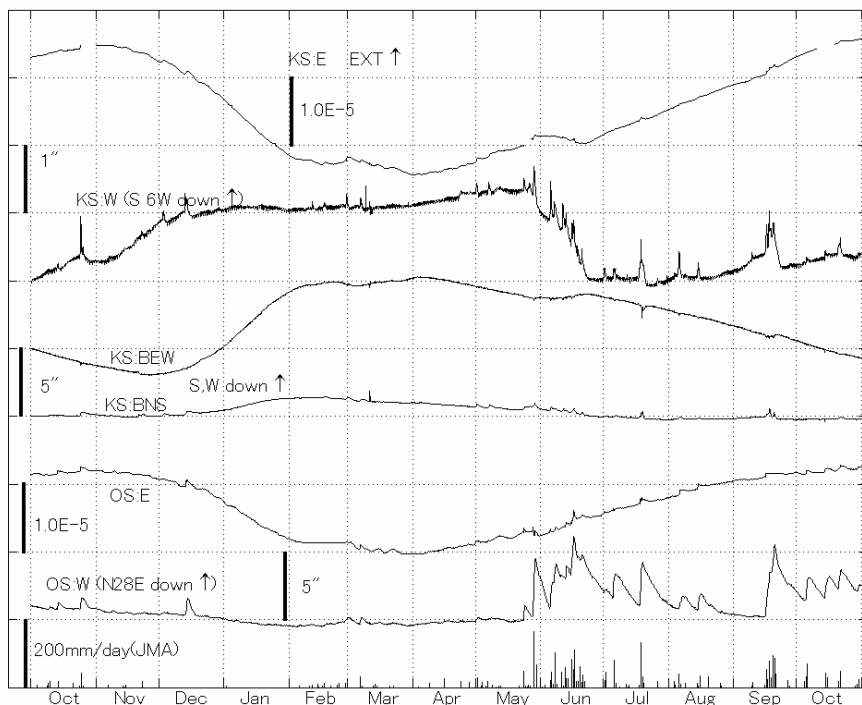
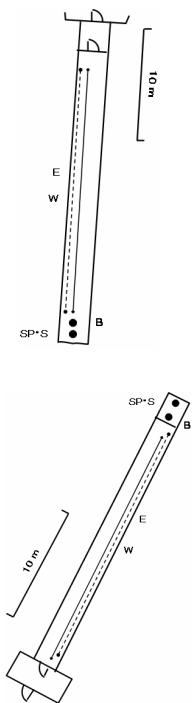
第3図 阿武山観測室における歪変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



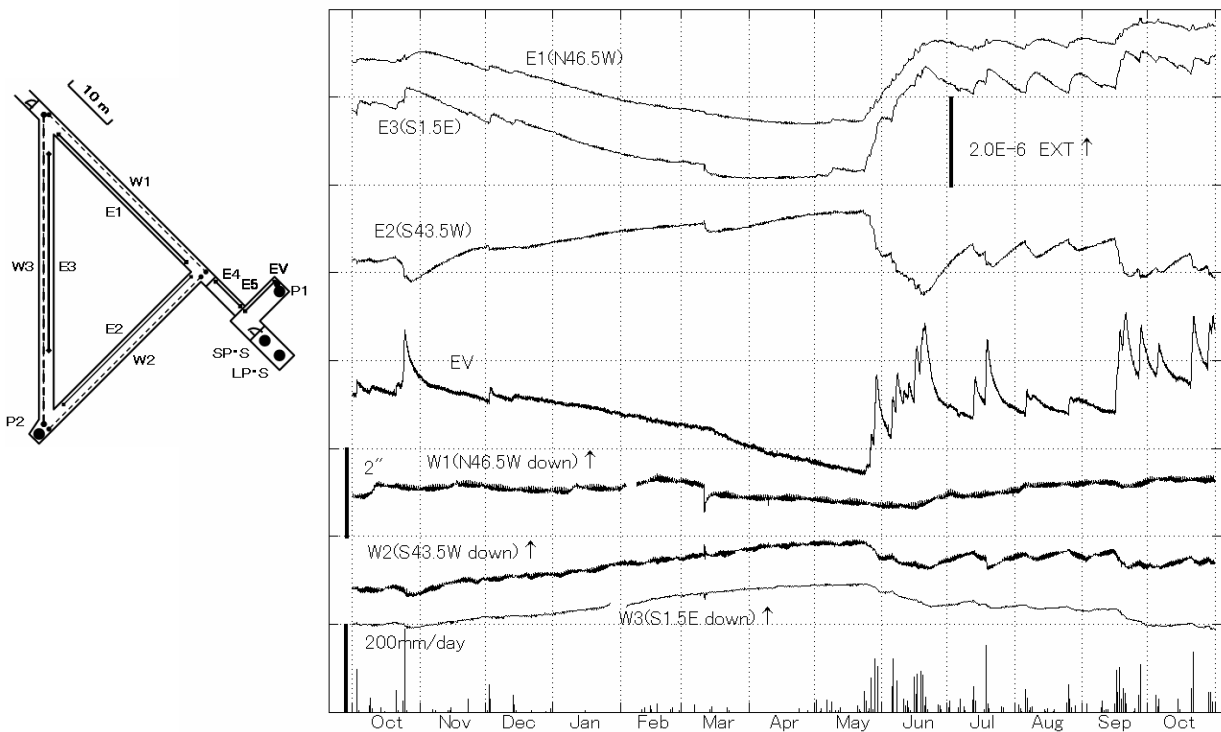
第4図 逢坂山観測室における歪変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



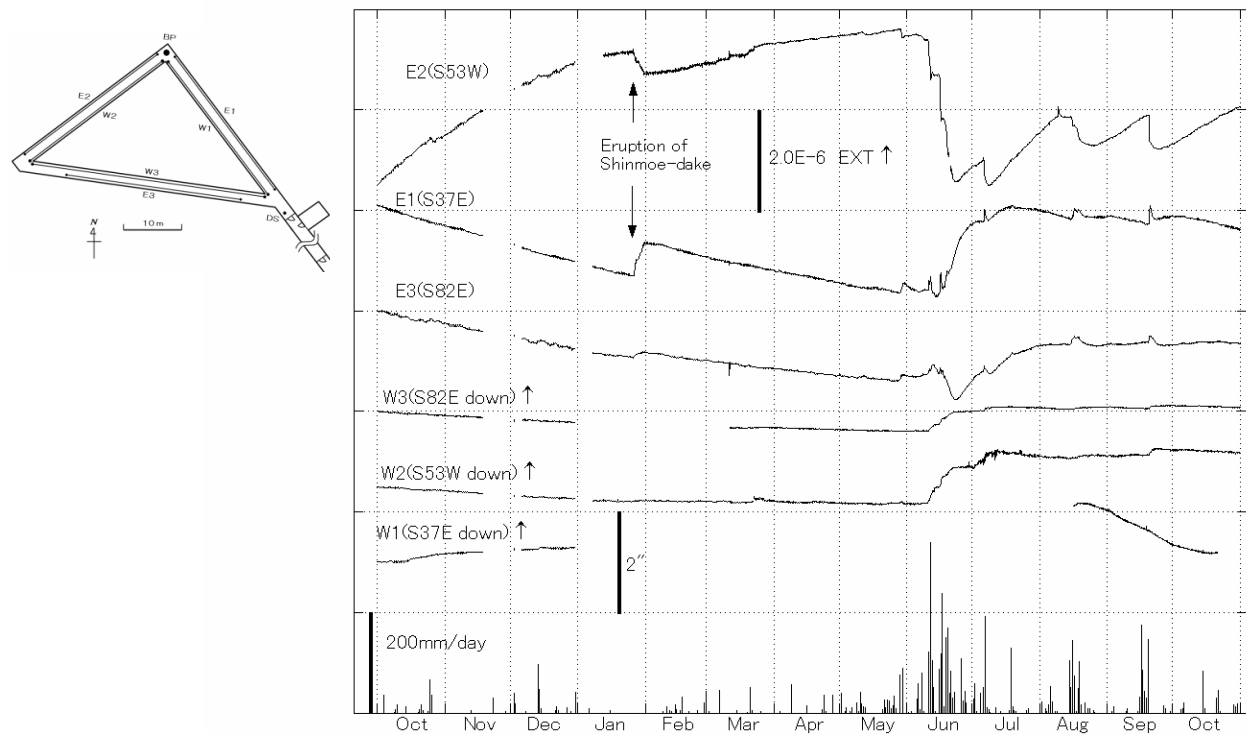
第5図 屯鶴峯観測所における歪変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



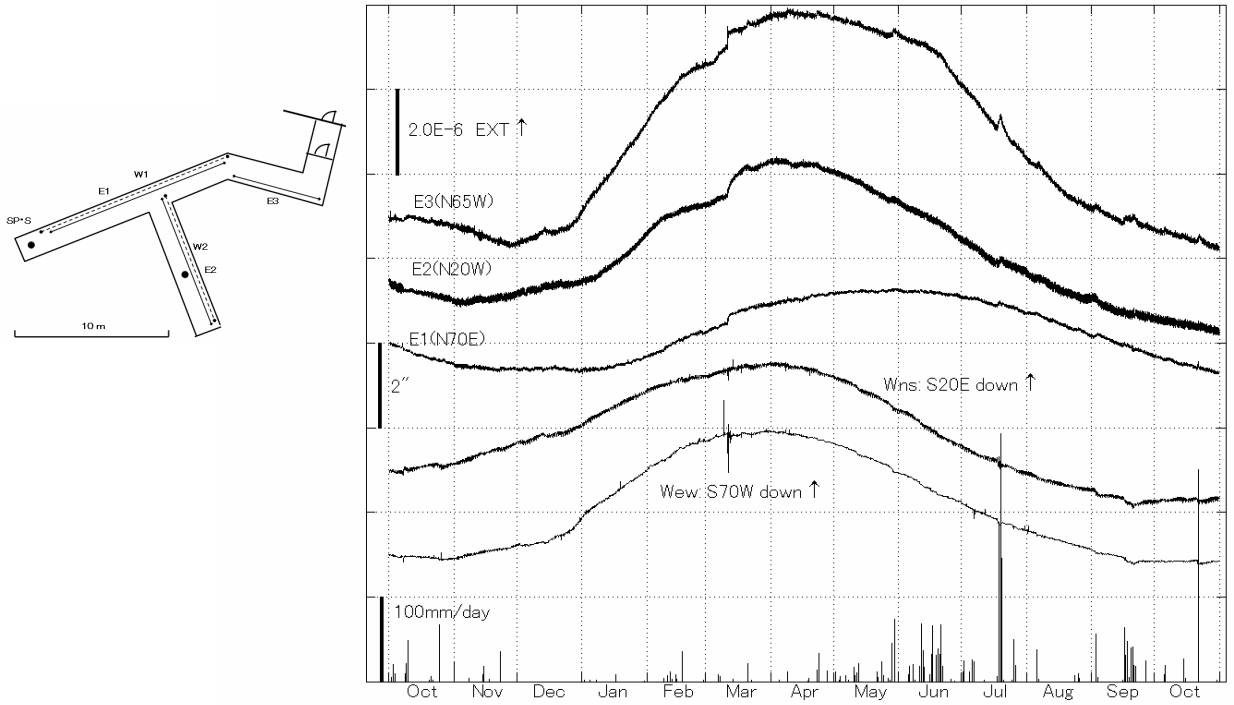
第6図 串間・大隈, 観測室における歪変化と傾斜変化(2010年10月～2011年10月)
雨量はアメダス(鹿児島県田代)の日雨量



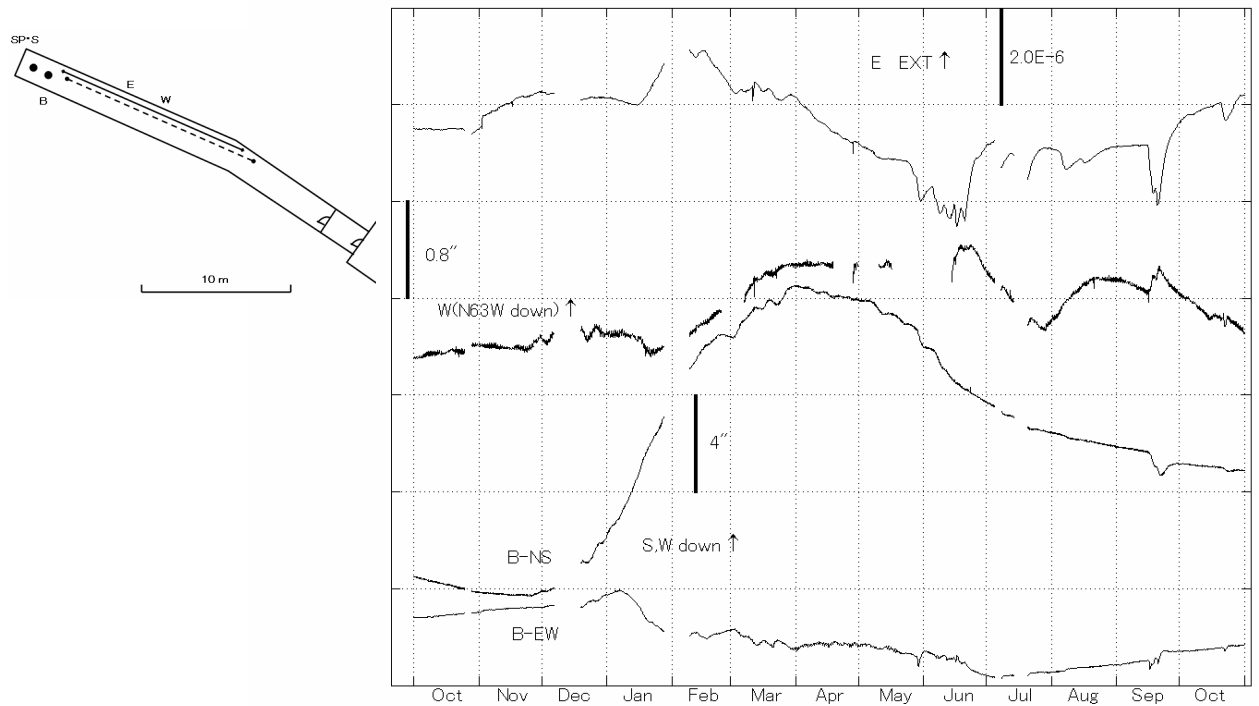
第7図 宮崎観測室における歪・傾斜変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



第8図 伊佐観測室における歪・傾斜変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



第9図 宿毛観測所における歪・傾斜変化と日雨量(2010年10月～2011年10月)



第10図 高城観測室における歪変化と傾斜変化(2010年10月～2011年10月)